

登録コード	A3595456	開講年度	2026				
授業科目	専攻研究					担当教員	鈴木 香奈子
英文授業名	Thesis Research						
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	4年生前期
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加わむ対象】専門的な知識や研究能力を修得している				研究課題について自分で取り組み方を考えながら遂行できる能力を培うこと。		
	【2022年度以前加わむ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				研究課題について自分で取り組み方を考えながら遂行できる能力を培うこと。		
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加わむ対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				研究課題について自分で取り組み方を考えながら遂行できる能力を培うこと。		
	【2024年度以前加わむ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				研究課題について自分で取り組み方を考えながら遂行できる能力を培うこと。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では、専攻研究 で作成した研究計画を遂行し、自身で試験の準備、必要な調査内容の明確化を行う。また、試験開始後はデータを確実に取得し、そのまとめを迅速に行う。また、信州をはじめとする日本の農業、世界の農業を取り囲む状況を理解するために、自身の研究テーマに関連する論文を読んでまとめる。						
(5)授業計画	1．試験準備を行っていく。 2．試験開始後は自身で圃場もしくはポット試験で栽培する作物の管理を行う。 3．生育状況、土壌状態のデータを採取する。 4．必要な分析についてはできる限り迅速に行う。 5．採取したデータについては迅速にまとめる。 6．既往の研究のデータとの比較を行っていく。						
(6)自主学習の指針	自身で栽培管理計画を立て管理を行うようにすること。						
(7)成績評価の基準	試験を中途半端にせず、責任をもって最後まで作物を栽培する姿勢、調査をなまけず最後まで行う姿勢を主に評価する。						
(8)事前事後学習の内容	事前に研究計画、試験実施内容について指導教員とよく相談すること。試験開始後もきちんとした試験管理を行うこと。						
(9)テストやレポートの予定	○中間報告として、研究成果についてレポート提出を求めます。 ○最後の15分間は授業アンケートに回答するための時間とします。						
(10)成績評価の方法	(5) に基づく。 非常にしっかりとした試験管理については高い評価をする。また、既往の研究成果との比較についてもしっかりと調べている姿勢については加点する。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	email: kanasuzu@shinshu-u.ac.jp						
(12)履修上の注意	わからないことについては、指導教員に連絡・報告・相談し、理解を深めるように努力すること。						
【教科書】	統計分析の書物についてはよく読んでおくこと。 例：統計解析のはなし 石村貞夫著						
【参考書】	統計分析、土壌学、栽培学の書物は読んでおくこと。						